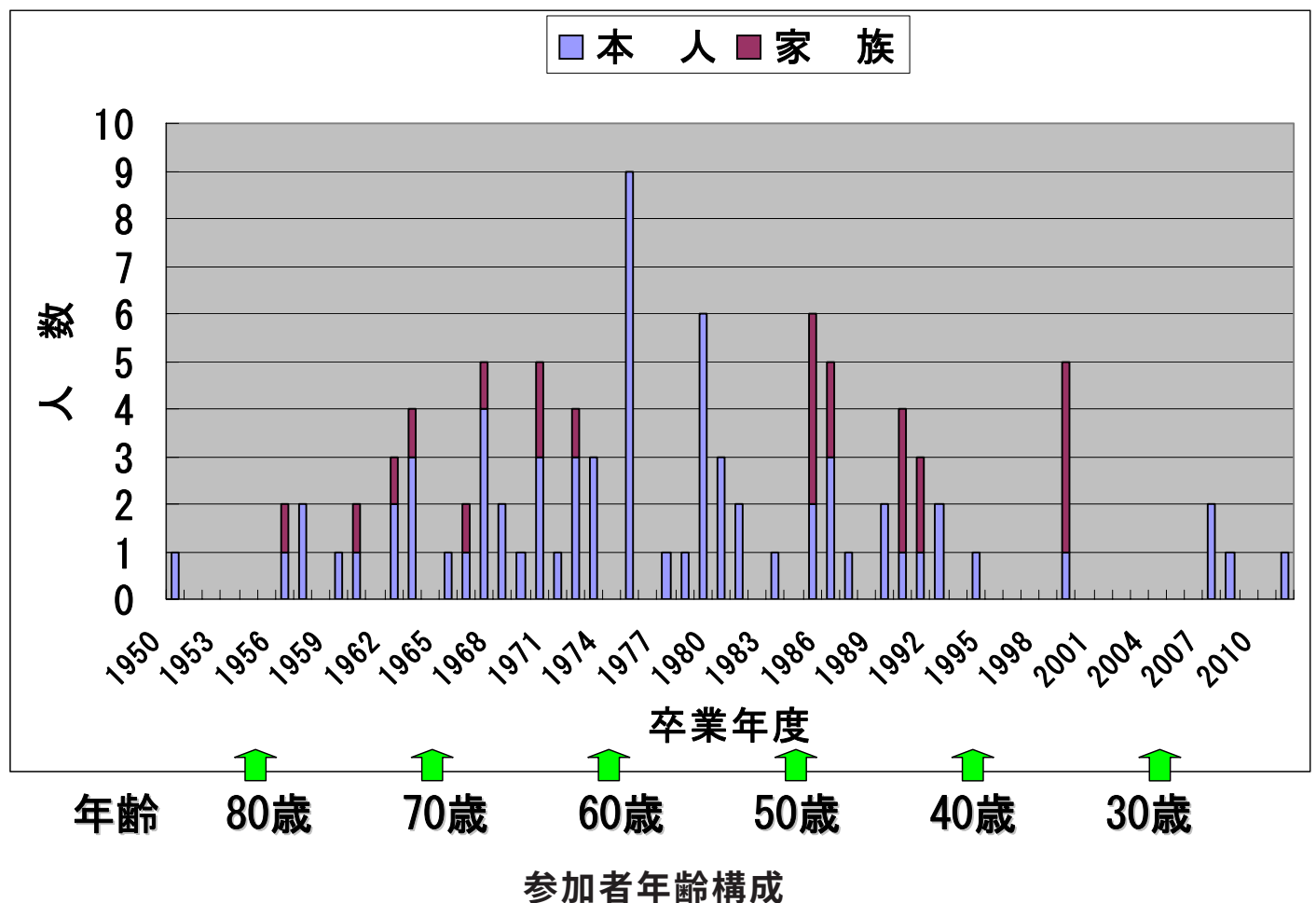


平成 24 年度 春季大会・総会の報告

平成 24 年 4 月 14 日(土)～15 日(日) 三菱重工業(株)長崎造船所本館において開催されました。九州という少し遠隔地での開催であるためどの程度の参加者が集まるか少し心配されていたのですが、京機会会員やご家族を合わせ約 100 名もの皆様にご参加いただき盛会となりました。出席者の分布は広い年代にわたり、感じの良い分布になっております。



4 月 14 日(土)には、長崎造船所紹介ビデオ、史料館、タービン工場見学の後、総会が開かれ全ての議事が滞りなく了承されました。講演として、

- ①「長崎造船所の歴史」 九州支部長 相馬 和夫氏(S50)
- ②「東西透かし彫り」 長崎総合科学大学 ブライアン・バークガフニ教授



が持たれました。相馬氏の話は明治以来の日本近代化に果たした三菱の重要性を再認識させてくれました。また、バークガフニ教授の講演はグラバー氏や長崎の歴史的紹介をわかりやすくして頂けた側面があり、勉強になりました。「わからん」（和華蘭）とか「わからんか」（和華蘭加：バークガフニ教授はカナダ人）とかの洒落も大受けでした。その後、例の通り懇親会で和やかな時が過ぎました。



4月15日(日)には、まだ長崎にとどまっていた人達が、

(1) 九州近代化産業遺産をたどる

軍艦島クルーズ → 四海楼昼食 → 小菅修船場 → グラバー園

(2) 「軍艦島」 + 「沈黙」

高島上陸見学(石炭資料館・岩崎弥太郎銅像) → 軍艦島上陸見学 → 出島
ワーフ → 遠藤周作文学館 → ド・ロ神父記念館

(3) ゴルフ： パサージュ琴海アイランドゴルフクラブ



と春の九州を楽しみました。

九州支部役員の方々のご努力、ならびに、幹事会社の三菱重工さんの衷心のご配慮により、参加者全員、平成24年度春季大会・総会ならびに関連行事を
こころから楽しむ事が出来ました。



ここまで来た！日本の燃料電池自動車

(その 3)

昭和39年機械科卒 平 忠明

経済産業省の基本方針

経済産業省・資源エネルギー庁・燃料電池推進室は、FC-EXP0 2012の基調講演において、燃料電池普及に向けた基本方針を「水素エネルギー社会に向けた政府の取組み」と題して発表している。その中の主要内容について、次に紹介します。

1. 資源・エネルギー政策の現状



○「産業構造ビジョン2010」において、戦略五分野として、①インフラ関連／システム輸出（水、原子力、鉄道等）、②環境・エネルギー課題解決産業（スマートコミュニティ、次世代自動車等）＝「新たなエネルギー産業」、③文化産業（ファッション、コンテンツ、食、観光等）、④医療・介護・健康・子育てサービス、⑤先端分野（ロボット等）の強化を提示し、これらによる、成長の牽引を提言した。

○この新たなエネルギー産業のうち、今回研究会の対象とした産業の市場規模を見ると、現状自動車の123兆円に対し新たなエネルギー産業は30兆円と、1/4程度であるが、2020年には自動車の151兆円に対し新たなエネルギー産業は86兆円と、1/2を上回る規模にまで大きく伸長することが見込まれる。

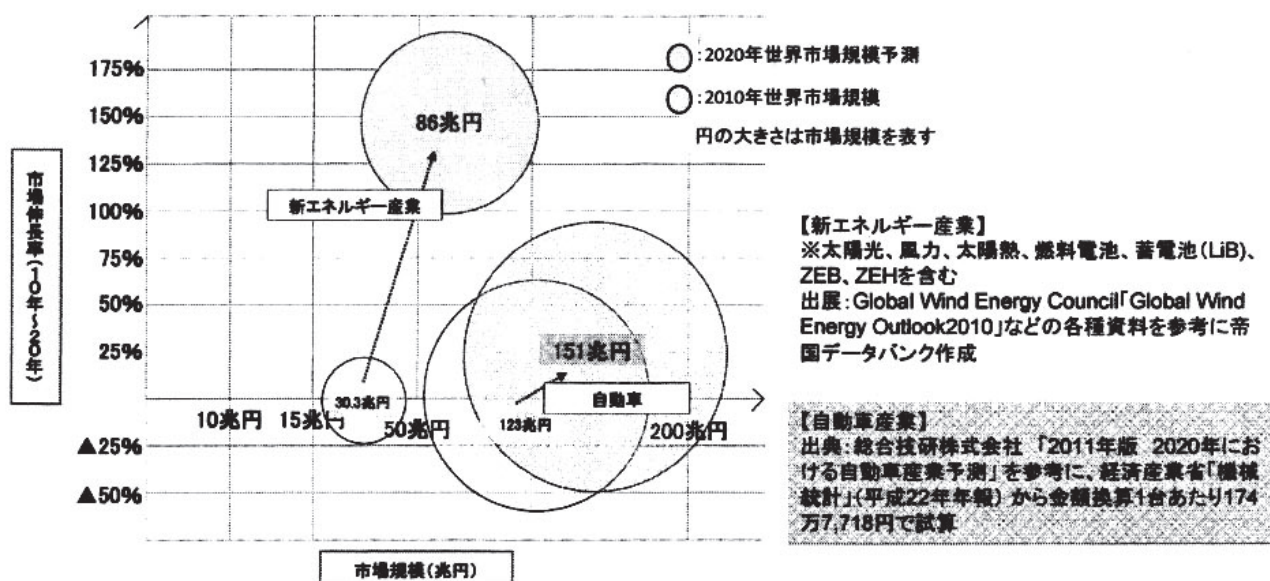


図7 資源・エネルギー政策の現状

経産省は新エネルギー産業を成長性の極めて高い分野と位置づけ、2020年には、全世界で86兆円、自動車産業の151億円の1/2を超えると想定している。

水素インフラの構築に向けて

- 国・自治体、インフラ業界、自動車業界の密接な連携・協力が必要
 - ✓ ステーション導入計画
 - ✓ 水素価格低減
 - ✓ 水素の社会受容性向上

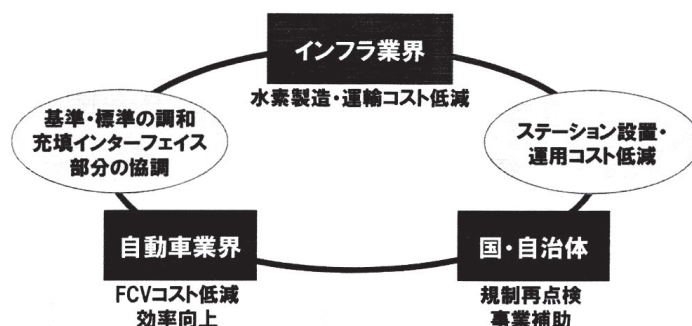


図8 水素インフラの構築に向けて

その中でも、環境・エネルギー課題解決産業の中で、水素燃料電池を核とする、スマートコミュニティ、次世代自動車：FCV を位置づけている。この課題に対しては、官・民が緊密な連携を持って、まず、水素インフラの構築が先決であるとしている。

自動車業界とインフラ業界は、長年、“Egg and Chicken” 論争を展開し、両者ともやや腰が引けた状態でいたことは否めなかった。しかしながら、経産省の2015年普及段階が差し迫った現在、燃料電池自動車の普及に当たっては、まずインフラ整備が欠かせないということで、両者の認識が一致し、2015年度の普及初期段階に向けて動き出したといえる。

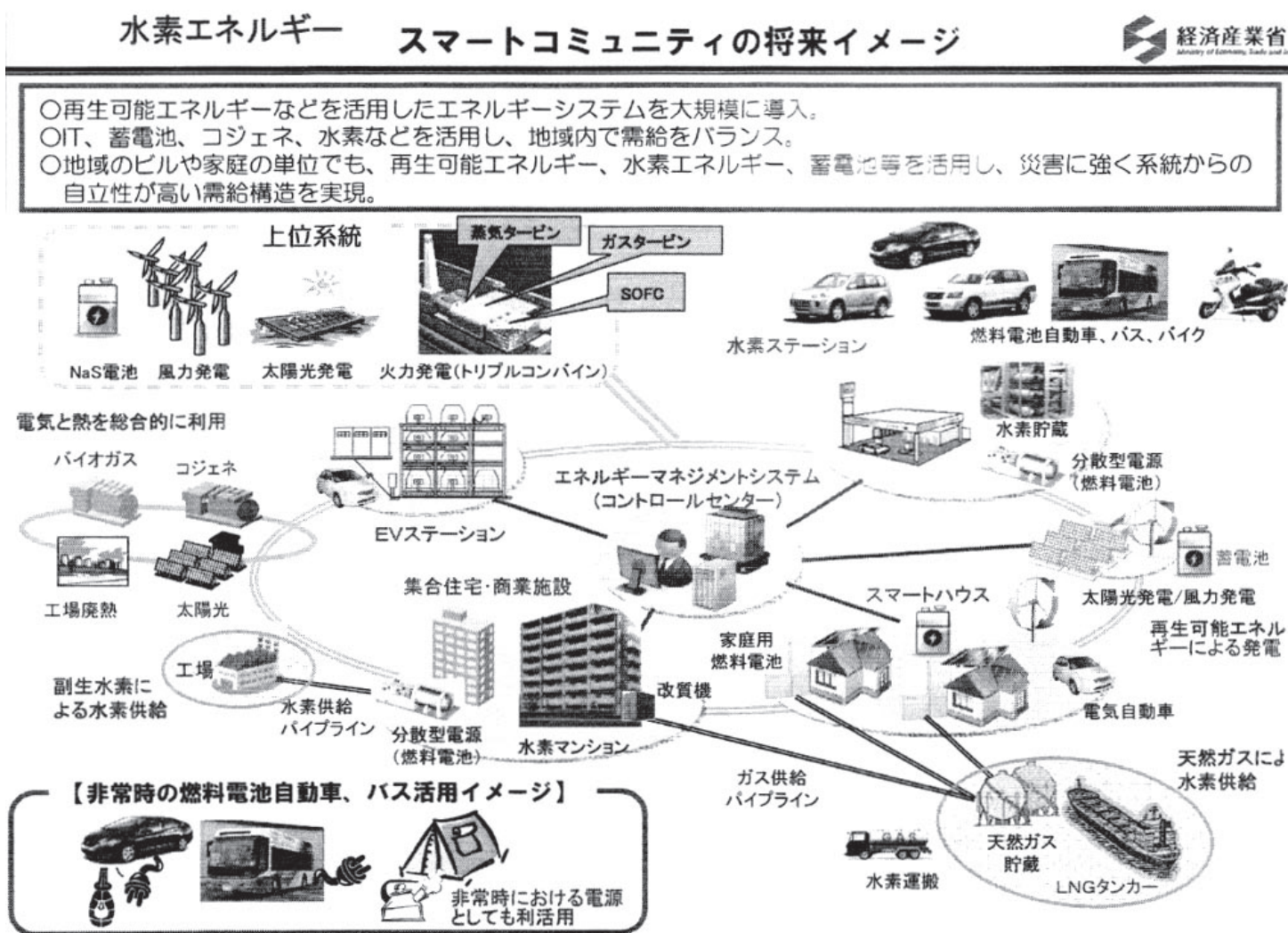


図9 スマートコミュニティの将来イメージ

現在注目されているスマートグリッド：電力バランスと最適給配電システムについても、水素エネルギーによる燃料電池発電・自動車が重要な位置づけにある。

(つづく)

第10回京機会関東支部ゴルフ会開催報告

日時：平成24年3月15日（木）

場所：江戸崎カントリー倶楽部（茨城県）

参加：14名

3月15日（木）に第10回京機会関東支部ゴルフ会が江戸崎カントリー倶楽部（茨城県）で開催されました。晴天に恵まれ穏やかなゴルフ日和となりました。岡毅遥ゴルフ会会長（1967年卒）以下14人が参加しました。



激戦の結果、濱中卓氏（1968年卒）が優勝されました。優勝者には持ち回りの優勝カップと共に優勝賞金が授与されました。準優勝は前野幹彦氏（1967年卒）、栄えあるブービー賞は江藤孝治氏（1968年卒）が受賞されました。皆さんのスコアはグロスで100を切る人が3人で、残りは100以上なので安心してご参加下さい。

次回は秋に実施を予定していますので、皆様のご参加をお待ちします。



—— 京機短信への寄稿、 宜しくお願い申し上げます ——

【要領】

宛先は京機会の e-mail: jimukyoku@keikikai.jp です。

原稿は、割付を考慮することなく、適当に書いてください。MSワードで書いて頂いても結構ですし、テキストファイルと図や写真を別のファイルとして送って頂いても結構です。割付等、掲載用の後処理は編集者が勝手に行います。宜しくお願い致します。

京機26年同窓会

平成24年3月15日、大阪ラマダホテル花外楼で同窓会を行った。集まったのは下記5名である。荒木、大塚、加藤、村上、吉川と入学35名の生き残りである。この会は数年前、佐々波君が京都か大阪でやろうということになり数年続いていた。

今年も佐々波君から出席の返事をもらっていたが、この会の直前に急死された。謹んでご冥福をお祈りします。去年は、豊嶋君も参加したが今年は欠、長い間会っていなかった荒木君が加わって結局5名となり話が弾んだ。

昭和26年卒は、中間は抜けていたが、名古屋、京都、大阪で割合集まっていた。記憶に残っているのは嵐山である。この時は、長老の先生方をご招待したので、皆ピリピリしていた。亡くなった畠君は現役だったので、何か忘れたが、老先生に相当絞られていたのを忘れない。それと新しい教室を見学した際は、随分お世話になった。改めて御礼を申し上げます。その他に、関西では京畿九日会が、毎年幹事会社が世話し盛会であったのも覚えている。

今、東京は加藤君、関西は吉川が世話役になっているが、声をかけても体調が悪く出てこられない。出席者は元気いっぱいでもた来年もやるぞと張り切っている。こういう会で昔を語り合うのが健康のもとである。

また旧制の学校を卒業し、昭和を生きたのは我々である。今の世相を嘆いてばかりでは如何ともし難い。戦前の日本の良きも悪きも体験して我々の今がある。せいぜい子供の世代には戦前のよき日本を語り継ごうではないか。

(吉川和彌)



野次馬話 第46話 「諺の曲解或いは振れたコメント」 その3

S43 卒 遠藤 照男

ひねくれた性格の筆者が、たまには真面目なコメントも交えながら、有難い諺に振れた解釈を加えた。 ☆印は真面目なコメントであることを示し、●印は字句を若干置き換えて捻り、 ・は適当な解釈を記している。

転ばぬ先の杖

●転ばぬ先の詰め

- ・杖をこう上げて、こう降ろして、石はこうかわして・・・ 細心の注意をして下をみて歩いていたら、看板にぶつかった。

猿も木から落ちる

- ・猿でも落ちるのだから、猿の真似をして木に登ると落ちて怪我をするぞ。弘法さん。

釈迦に説教

- ・釈迦にも時々説教しなければ道を踏み外す虞（おそれ）があった。当然先生には再教育が必要なのだ。
- 釈迦に鉄砲
- ・即身成仏する。生身の人間はダメージが大きいという教訓。

重箱の隅をほじる

- ・些細なことと決め付けないこと。食べ物は隅に残っているものも掻き出して大切に食べなさい。

じょうずの手から水が漏る

●手水（じょうず）の手から水が漏る

- ・手洗いの水は、たっぷり使って清潔によう。漏らさないなんて考えなくていいから。

少年老い易く学なり難し

●少年生い、安く学なり難し。

- ・この子もそろそろ塾に行かせなければならぬわね。私パートに出るわ。

随喜の涙

- ・ずいき（里芋の葉柄）を使ってX X X。品が落ちるので、ここから先は打ち切り。

千慮の一失（いっし）

● 浅慮の過失

- ・考えても間違えはある。考えなければなお更だ。

滝のような汗

● 汗のような滝

- ・比喩を逆にすると結構笑えるし、怖くなるものもある。

他の組合せに

柳	のような	眉	→	眉	のような	柳
白魚	のような	指	→	指	のような	白魚
鱈子	のような	唇	→	唇	のような	鱈子
林檎	のような	頬	→	頬	のような	林檎
鈴	のような	声	→	声	のような	鈴
棚	から	ぼたもち	→	ぼたもち	から	棚
底上げ	→	上げ底				
駅前バス停	→	バス停前駅				
鰻の寝床	→	寝床の鰻				

最後のは下ネタ向き。 フン、あんたのはドジョウよ。

- ・現実の問題を取り上げると、必ずしも「医者（薬屋、健康食品会社）が患者を長生きさせる」のではなく、「患者が医者、薬屋、健康食品会社を長生きさせている。」のである。

駆け出しの医者や教師は、患者や生徒を踏み台にしている。

INFO

- 詳細はPDF版でご覧下さい。

1. 次世代の育成と活躍できる社会の形成に向けて

平成24年4月9日 第3回 国家戦略会議

http://www.npu.go.jp/policy/policy04/archive05_09.html#haifu

配布資料

資料1 次世代の育成と活躍できる社会の形成に向けて

<http://www.npu.go.jp/policy/policy04/pdf/20120409/shiryo1.pdf>

資料 2 平野文部科学大臣提出資料

<http://www.npu.go.jp/policy/policy04/pdf/20120409/shiryo2.pdf>

資料 3 小宮山厚生労働大臣提出資料

<http://www.npu.go.jp/policy/policy04/pdf/20120409/shiryo3.pdf>

資料 4 中川少子化対策、男女共同参画担当大臣提出資料

<http://www.npu.go.jp/policy/policy04/pdf/20120409/shiryo4.pdf>

資料 5 古川経済財政政策担当大臣提出資料

<http://www.npu.go.jp/policy/policy04/pdf/20120409/shiryo5.pdf>

資料 6 フロンティア分科会の中間報告に向けた論点整理

<http://www.npu.go.jp/policy/policy04/pdf/20120409/shiryo6.pdf>

2. 人材育成ワーキンググループ（第1回）- 配付資料

平成23年3月27日

経済産業審議会情報経済分科会

http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/jouhoukeizai/jinzai/001_hai fu.html

資料 1 人材育成ワーキンググループの開催について

http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/jouhoukeizai/jinzai/001_01_00.pdf

資料 2 委員名簿

http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/jouhoukeizai/jinzai/001_02_00.pdf

資料 3 議事の公開について

http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/jouhoukeizai/jinzai/001_03_00.pdf

資料 4 検討課題

http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/jouhoukeizai/jinzai/001_04_00.pdf

参考資料集(1)

http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/jouhoukeizai/jinzai/001_s01_00.pdf

参考資料集(2)

http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/jouhoukeizai/jinzai/001_s02_00.pdf

参考資料集(3)

http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/jouhoukeizai/jinzai/001_s03_00.pdf

参考資料集(4)

http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/jouhoukeizai/jinzai/001_s04_00.pdf

参考資料集(5)

http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/jouhoukeizai/jinzai/001_s05_00.pdf

参考資料集(6)

http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/jouhoukeizai/jinzai/001_s06_00.pdf

参考資料集(7)

http://www.meti.go.jp/committee/sankoushin/jouhoukeizai/jinzai/001_s07_00.pdf

関連リンク 情報経済分科会人材育成ワーキンググループ

http://www.meti.go.jp/committee/gizi_1/8.html#jinzai

3. キャリア形成支援

職業能力開発局 育成支援課

H24.3.29

企業による労働者のキャリア形成支援を普及啓発するため表彰制度の創設と優れた取り組み事例の提供を提言～平成23年度「企業のキャリア形成支援推進研究会」報告書まとまる～

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r98520000025yv1.html>

厚生労働省では、このほど、中央職業能力開発協会への委託による「平成23年度企業のキャリア形成支援推進研究会」の報告書を取りまとめましたので、公表します。

本研究会の主な検討結果は、以下のとおりです。

- 職業生涯の長期化などを背景に労働者のキャリア形成が必要であり、企業などの果たす役割が大きい、好事例や具体的な効果などの共有が難しく、取り組みが進みにくい。このため、国によるグッドプラクティス（優れた取り組み）情報の提供が必要。
- グッドプラクティス情報を収集、提供し、企業などのキャリア支援を普及啓発するために、国による表彰制度を創設することが効果的、効率的であり、来年度（平成24年度）から速やかに実施することが望ましい。
- 表彰制度の評価は、「1. キャリア形成の仕組みと活用」「2. 機能・効果性」「3. 普及推進への貢献」の3項目で構成する。また、表彰は、総合的に評価するだけでなく、特に優れた特徴を持つ企業なども対象とすべき。さらに、評価項目は、企業などの自己評価（チェックリスト）にも活用されることが期待される。

添付資料

平成23年度企業のキャリア形成支援推進研究会報告書の概要

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r98520000025yv1-att/2r98520000025yzr.pdf>

平成23年度「企業のキャリア形成支援推進研究会報告書」

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r98520000025yv1-att/2r98520000025ywi.pdf>

4. 日本政策金融公庫「調査月報」

2012年4月号

http://www.jfc.go.jp/common/pdf/tyousa_gttupou_1204.pdf

調査レポート

●年齢で変わる新規開業の役割

—「2011年度新規開業実態調査」から—

論点多彩

●中小企業における中核人材の育成

5. 【提言】企業は人なり～情熱とビジョンに基づく人材戦略～

平成24年4月

関西経済同友会中堅企業委員会

<http://www.kansaidoyukai.or.jp/LinkClick.aspx?fileticket=a8v7pqaGx4w%3d&tabid=57&mid=528>

人材確保における経営者の心得

(1) 人材は攻めて“獲ろう”

(2) 採用の手間を惜しまない、ただし直感も尊重しよう

人材育成における経営者の心得

(1) 長期的なプランを作り、継続的に実行しよう

(2) 我が子のように、きめ細かく育てよう

(3) 学び合う風土を作ろうー聴き合い、認め合い、引き出そう

(4) 育てる力を養おう

(5) ワーク・ライフ・バランスの取り組みを充実させよう

5. 金を払って人に会う米国人、タダでも会わない日本人

人のつながり方に見える日米差

日経ビジネス

[http://business.nikkeibp.co.jp/article/tech/20120316/229892/?](http://business.nikkeibp.co.jp/article/tech/20120316/229892/?P=1&ST=spc_ikkyoku)

[P=1&ST=spc_ikkyoku](http://business.nikkeibp.co.jp/article/tech/20120316/229892/?P=1&ST=spc_ikkyoku)

日本人同士は四六時中、顔を付き合わせ、時には公私混同に近い形で密接に仕事をしている。一応、そう見える。しかし対等な協力関係を作って何かを推進していくのは下手だ。これが書きたかった。

日本の製造現場の担当者同士の連携度合い、密着度合いは世界一と言われた。正社員も季節雇用の人も協力会社の人も、研究者も設計者も工程管理者も、全員が現場にいて力を合わせる。これは強みであって弱める必要はないが、それだけではもうやっていけないのである。

6. グローバル時代を生き抜くための術を伝授する

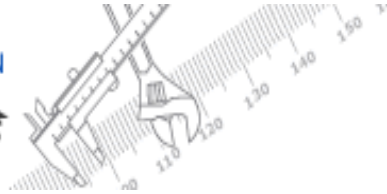
日経ビジネス

第4回 聞いたまま考えないで書き込もう

いいことづくめの手法

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/skillup/20120322/230158/?P=1>

今回は、初回と同様に「書く」力に焦点を当てる。非常に簡単で誰でもできる方法である。ただ、通常大人はあまりやっていない。それを使い込むと意外な威力を発揮する方法を紹介しよう。それは「聞いたままその通り書き込もう」という方法だ。



ごあいさつ

新たな一年が始まったことで、大学のキャンパスは新入生であふれており、私達KARTとしても新メンバー獲得に向けた活動にも精を出しております。また、車両が完成したこともあり、テスト走行を行いながら車両の熟成も行っております。これからも私達KARTに温かいご支援、ご声援をよろしくお願いいたします。

テスト走行

シェイクダウン後も、精力的に車両のテスト走行を行っております。車両完成直後は様々なトラブルが起こりますが、今年度車両においても例外ではなく、排気管の排熱不足や、ハブベアリングの損傷等、いくつかの問題箇所が出てきました。5月からは、6月中旬に提出するデザインレポートの資料として、車両データも必要になってくるため、これら問題箇所の洗い出しを早急に行い、まともに走る車両でもって、走行データの収集に努めたいと思います。

京機会中部支部総会

4月7日、愛知県刈谷市の株式会社豊田自動織機シャインズにて、京機会の中
部支部総会が行われ、KARTより2名が参加いたしました。総会の後、特別講演
会と称し、トヨタ自動車株式会社の棚橋晴彦様による、自身が携われたレクサス
LFAの開発の軌跡についての講演と、京都大学の松野文俊教授による、ロボット
を用いた災害対応活動についての講演がありました。特にレクサスLFAの開発に
ついてのお話は、そのスケールは違え
ども、同じ自動車を開発している私達
にとっては、身近に共感できる所もあ
れば、思想が根本的に異なっている所
もあり、非常に興味深く拝聴させてい
ただきました。

特別講演会後の懇親会では、新入社
員歓迎会などが行われましたが、それ
らの合間のお時間をいただいて、KART



プレゼンを行う今年度リーダー小川

の活動報告をしてまいりました。2010 年度と 2011 年度を通しての「2 カ年計画」の活動についても触れつつ、近況の報告と今年度の大会にかけるメンバーの熱い志を語ってまいりました。活動報告後には京機会会員の皆様のもとに直接ご挨拶とご支援のお願いに伺い、皆様からたくさんのご支援、ご声援、そして車両製作・チーム運営に対してのアドバイスをいただきました。この場をお



会場に持ち込まれたレクサス LFA